



家畜衛生だより



令和4年度35号(鶏) 令和4年11月発行

南部家畜防疫協議会
(公社)千葉県畜産協会
千葉県南部家畜保健衛生所
〒296-0033 鴨川市八色52
電話 04(7092)2304
FAX 04(7092)1434

鹿児島県・福島県の農場で高病原性鳥インフルエンザ発生 (国内19、20例目)

【19例目】

所在地：鹿児島県出水市

飼養状況：約47万羽(採卵鶏)

経緯：

- 11月26日：農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受け、県が立入検査を実施。簡易検査陽性。
- 11月27日：遺伝子検査の結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認。

【20例目】

所在地：福島県伊達市

飼養状況：約1.7万羽(肉用鶏)

経緯：

- 11月28日：農場から、死亡羽数が増加している旨の通報を受け、県が立入検査を実施。簡易検査で陽性。
- 11月29日：遺伝子検査の結果、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認。

正しく消毒できていますか？ ～逆性石けん～

逆性石けん(アストップ、パコマ、ロンテクト、パンパックス等)は

- 低温下で消毒効果が著しく低下 ↓↓↓
- 有機物存在下で効果低下 ↓

どうする？

△逆性石けんの濃度を濃くする。

◎**逆性石けんにアルカリ剤を添加**する。→低温化でも効果が維持・増強

例：水	1 t	
逆性石けん(×500～×1000)		1～2 L
水酸化カルシウム	1.7 kg	

粒子径の小さい(10μm)マイクロ水酸化カルシウム(食品添加物規格)を使ってください。

推奨濃度：0.17%、参考価格：500円/kg

どこで使う？

- 車両消毒 ※1 ★荷台の消毒も重要！！
- オールアウト後の鶏舎消毒
- 資材(輸送かご、卵トレイ)の漬け込み消毒 ※2、3
- 長靴、衣服の漬け込み消毒 ※2、3 等

<注意>

- ※1 初めての使用時は、アルカリで配管に詰まっていたヘドロ等がはがれてノズルが詰まる恐れがあるので、ノズルを外してから使用しましょう。
- ※2 糞便等の有機物があると、消毒薬の効果が落ちます。必ずきれいに洗浄してから消毒しましょう。
- ※3 長靴は3分間、衣服は10分間の漬け込みが必要です。

その他 ～消毒薬の凍結防止対策～

低温下で消毒薬が凍結する場合は、**動物用消毒薬に使用可能な不凍液等を利用**しましょう。

千葉県南部家畜保健衛生所 TEL 04-7092-2304 FAX 04-7092-1434

家きんの異常を見つけたら、速やかに家畜保健衛生所に通報を！

※休日、夜間は転送されますので必ず5回以上のコールをお願いします。

高病原性鳥インフルエンザの続発を踏まえた

緊急提言 (R4.11.28家きん疾病小委員会)

【現状】

令和4年9月以降、野鳥等から高病原性鳥インフルエンザ（以下HPAI）ウイルスが数多く確認されており、全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっています。

10月28日の初発以降、11月28日までに19例が確認されており、過去最多の発生（52例）が確認された2020～2021年シーズンを上回るペースとなっています。

【今後の防疫対応】

環境中のHPAIウイルス濃度が非常に高まっていることから、特に農場敷地内や鶏舎周囲も野鳥の糞等に含まれるHPAIウイルスにより汚染されている可能性が高いことを認識したうえで、以下の対応をお願いします。

① 従業員の指導

鶏舎に出入りする従業員等に、消毒、長靴交換等の重要性を説明し、適切に消毒や長靴の交換ができていないか再度確認してください。

② 農場敷地内や鶏舎周囲の消毒

農場敷地内や鶏舎周囲の消毒を毎日行いましょう。ため池等の水場がある場合、その近くはリスクが高いことから、徹底して消毒を行いましょう。

③ 小動物・野鳥を近づかせない対策

猫やイタチ等の小動物や野鳥等が農場内に近づかないような対策を講じましょう。消石灰散布は忌避効果があります。また、隠れ場所を無くすために農場内は整理整頓・除草を行いましょう。野鳥対策として、餌こぼしが無いように定期的に清掃することも大切です。

④ 野生動物の侵入防止対策

開放鶏舎のみならずウインドウレス鶏舎も、飼養衛生管理者と鶏舎構造を熟知している者等が連携してねずみや猫をはじめとした野生動物等が侵入しそうなルートを探し侵入防止対策を講じましょう。屋根・壁に破損が無いか確認しましょう。ラットサインは鼠の通り道です。

⑤ 衛生管理区域専用の衣服・靴、鶏舎専用の靴の着用及び手指消毒

鶏舎の出入りの際にウイルスを鶏舎内に持ち込むことのないよう、衛生管理区域に入る際の適切なタイミングでの専用衣服の着用、鶏舎ごとの専用長靴の設置、手指消毒及び長靴の消毒・交換等の適正な衛生管理が日常的になされているか再度確認しましょう。

⑥ 長靴の消毒

消毒を行う際は、長靴等の汚れを落としてから行うとともに、消毒薬は汚れた都度、最低でも1日1回以上交換し、消毒薬が有効な状態での使用を徹底しましょう。

⑦ 長靴履き替え時の交差汚染防止

長靴の交換の際は、交差汚染を防ぐため鶏舎外と鶏舎内で使用する長靴の動線が交わらないように注意しましょう。

⑧ 発生地域になった場合

万が一、近隣農場でHPAIの発生があった場合は、感染拡大リスクが増大していることを念頭に最大限の注意を払って行動してください。

全国的に過去に類を見ない程に本病の感染リスクが高い状況にあることを認識し、引き続き、飼養衛生管理を徹底し、最大限の警戒感をもって対応してください。